

<共同事業者> 東京海上日動火災保険株式会社、株式会社ファミトラ、社会福祉法人福岡市社会福祉協議会



事業概要

背景・目的

認知機能は加齢に伴い低下し、福岡市の認知症の方の数は2015年の3万3千人から2040年には2.1倍の6万9千人に増加する見込み。一方で、判断能力が低下しても自分らしく生きるためには、財産管理や生活環境の面でどのような備えが必要か、十分に認知されていない。

人生の最期まで、自分で自身の生き方・幸福のあり方を選択していくためには、自分自身の将来のありたい姿やそのために必要なお金の話など、自分の意思を家族などの身近な方と話すことが重要であるが、身近な方と将来の話をするのは難しい。

本プロジェクトでは、何歳になっても自分らしい生き方を選択できるまちづくりに向けた第一歩として、加齢による認知機能低下、金銭管理等の課題、事前の準備(親の状況や希望等の確認)の必要性などを伝えるコンテンツ提供と、企業を巻き込んだ啓発を行う事で、身近な方であっても話しにくい「ありたい姿」「幸せ」などの話ができる、まち全体の雰囲気づくりを目指す。

実施期間

2024年2月1日～2025年1月31日

実施内容

(1) エイジングリテラシー向上に向けたコンテンツ制作と提供

- ① 身近な方と話をしておくための手順を示した「ハンドブック」を作成し配布
- ② 「エイジングリテラシー向上セミナー」の開催
加齢に伴う身体機能の変化、介護・認知症の実態、マネープラン、家族（特に親子）とのコミュニケーションの重要性や会話の”コツ”について説明

(2) 賛同企業の募集

本プロジェクトに賛同し、家族と将来の話をするのを従業員に推奨頂ける企業を募集。

<参加特典>

- ・特設サイトへの企業ロゴ掲載
- ・エイジングリテラシーを高めるハンドブック進呈
- ・従業員様向け&人事総務ご担当者様向け無料セミナーの提供など

(3) 自己決定支援ワーキンググループの立ち上げ

本プロジェクトをさらに発展させるために、市民の暮らしを支える地元金融機関などの協力を得て立ち上げ

※エイジングリテラシーとは
加齢により身体の機能や能力がどう変化するのか、どのような備えをしておけばよいかなど人生100年時代を自分らしく生きるために必要な情報や知識

結果

身近な方と話をしておくための手順を示した「ハンドブック」

・市役所・区役所・市内歯科医院/薬局などに約1.5万部設置

エイジングリテラシー向上セミナーの開催

・市民センター等で各区開催：7区×2回=計14回
・市民セミナー参加者数：363名
新たに取組みを始めた参加者の割合：98.7%

賛同企業の募集

・賛同企業数：15社
・賛同企業向けセミナーの開催：1社（参加者：47名）



自己決定支援ワーキンググループの立ち上げ

・発足日：2024年11月25日

今後の展開

本プロジェクトで立ち上げた自己決定支援ワーキンググループにおいて、地域の金融機関と協力し、認知機能低下への備えを促す啓発活動や、リスクを防ぐ情報連携の体制づくりに取り組むことで、市民が安心して自分らしい生活を送れる社会の実現を目指す。